

2021年1月21日

日本教育オーディオロジー研究会
会員各位

日本教育オーディオロジー研究会
会長 大沼 直紀

「教育オーディオロジー」掲載論文の査読に関して(お詫び)

時下、本研究会会員および関連する皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃より、本研究会へ多大なるご協力、ご支援を頂戴し、心より感謝申し上げます。

標記の件について、このたび、本研究会発行の学術誌「教育オーディオロジー研究」の原著論文につきまして、編集委員会において、本来、掲載前に必要となる査読が適切になされていないことが判明いたしました。まずは会員の皆様にお詫びを申し上げるとともに、以下に経緯をご説明させていただきます。

原著論文の査読は、質の高い学術論文を会員および学界に供する上で不可欠なプロセスであり、本誌においても2013年度発行の第7巻以降、投稿規定で定められていたものです。

しかしながら、実際には誤字・脱字などの校正に近い内容で済まされ、学術的な意味での査読に値しないものが複数の論文で見られており、編集委員会による査読制度の運用そのものがなおざりの状況となっておりました。

このことは貴重な研究論文をご投稿いただいた執筆者、一部の査読者はもとより、会員および関係される学界の方々の信用を失するものであり、大変申し訳なく思います。

現在、2013年度発行の第7巻以降の掲載論文の「内容確認(査読)」を開始しています。すでに、掲載されたものであり、修正が困難であることから、「原著論文として適当」か「研究報告として適当」かについて審査を進めております。結果は、執筆者に個別にご連絡するとともに、会報第14号に掲載の予定でございます。

今後は、原著論文と実践報告など、論文種別と査読の有無を明確にした上で、教育オーディオロジーの学術的・実践的知見をより確かに発信できるよう、しっかりした編集体制の整備・改善に努めてまいります。今後とも、本研究会へのご支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。このたびは、多大なるご迷惑をおかけしますこと、心からお詫び申し上げます。

なお、本誌においてすでに掲載された論文の執筆者におきましては、一切の非がないことを重ねてお伝えいたします。また同時に、特別講演などを元にまとめられた論文につきましても、これらは元々査読を必要とするものではなく、今回のお詫びとは無関係であることをご承知おき下さいますよう、お願い申し上げます。